



— 台東マーチング委員会 —

(望月印刷株式会社)

- 媒体名：印刷情報 2017年10月号 (印刷出版研究所)
- 記事タイトル: (特集)地域とともに生きる印刷会社 (望月印刷 副執行役員が対談参加)
- 主なポイント

- 1.モノ作りの町として栄えた台東区で、地域イベント「モノマチ」に2012年に知り合いに誘われ、個人で参加、2年目からは会社を上げて取り組まれ、現在は同エリアの統括責任者として運営部分に直接携わっている。
- 2.今年からマーチングに入会され浅草橋のイラスト百景ハガキの販売を開始。屋形船の組合への百景絵はがきの提案中。
- 3.地域活性化に関わっていく必要なポイントとして、利根川塾長が唱えている「先義後利」の紹介。

地域と共に生きる印刷会社

街の活性化に貢献 | 自社の発展と共に歩む

座談会 地域活性化で、街も自社も楽しく元気に

— 印刷会社が果たす役割 —

印刷会社は、地域とどのように向き合っていくべきだろうか。地域と共に生きる印刷会社の中に、ここからの発信が大きなヒントと可能性を秘めている。座談会を企画した。地域活性化に先駆的に取り組んでいる株式会社日相印刷(栗井功雄社長、神谷川陽雄取締役)、望月印刷株式会社(望月裕将社長、東京郡台東区)、一般社団法人むらさき館(山本久嗣代表理事、東京都千代田区)の3社・団体に、地域活性化における印刷会社の役割や展望を聞いた。

地域イベントに参加

望月印刷さんは、モノづくりの町、東京都台東区と墨田区の中で、創業112年(明治38年)を迎える老舗の総合印刷会社です。墨田区に撮影スタジオも保有し、3D・VR(仮想現実)といった紙メディア以外にも業界に取組まれています。地域活性化のため、地域イベントにも熱心に参加されています。まずはその中、台東区南側の地域イベント「モノマチ」に参加されたきっかけから伺えます。

「モノマチ」に関わろうとなったのは、今から5年前になります。台東区一帯はモノづくりの町として栄えてきました。区が運営する「台東アメイーズビレッジ」という若いデザイナーの創業を支援する施設があり、そこを出身とする若いデザイナーたちも何の有志たちがモノづくりの町を再来、実際にビルしようとして、2011年に「モノマチ」を立ち上げました。

「モノマチ」は、台東区南側の町を巻き込みモノづくりや町の魅力を盛り込もうというイベントです。町中でモノづくり体験や作品販売、展示など毎年5月下旬にイベントを行っています。3日間の期間中、約10万人が訪れます。毎年10月目を迎えます。

立ち上げ翌年の2012年に、知り合いに誘われ、参加したいのを伺ったので、この時は、会社としてではなく、私個人として参加していました。

「モノマチ」の企画は台東区南側を3つの地域エリアに分けて運営を行っています。そうしている理由は、私自身・駒形・浅草橋、浅草橋エリアを管轄するリーダーを任せられ、エリアごとの統括責任者を務めています。もちろん、運営部分に直接関わっています。

2012年に一社ではなかなか進んだ活動にしようとして、今では「台東モノづくりのまちづくり協会」として設立し、協会のメンバーになりました。役員は1名だけですが、全員がボランティアで、手弁当で運営を行っています。

私自身、ショップや飲食店など100店舗の会員を統括しています。毎月のやり取りなど、なかなか大変なところもあるのですが、楽しんでやっています。一歩ラフな活動というのですが、会社として取り組まれている活動なのでよかったです。

関 協会の活動は個人だけが、そのうち共同でつくれば社員数も個人別にボランティアで参加してくれて、会社の中で取り組まれています。2年目からは会社の中で取り組まれています。

一歩には参加されていない活動があります。

関 墨田区の工場が参加する「STEMA」というイベントにも協力しています。墨田区の町工場を開放して工場見学や、職人を雇って技術に触れ、モノが作られていく現場を肌で感じることのできるイベントです。11月下旬の2日開催されています。

本社がある浅草橋の町内が持っている「浅草橋紙伝(やまごまごり)」に参加しています。お祭りを通して行うため、物品販売も行っています。今年からマーチング委員会へ加入したのと同じ、浅草橋のワークショップ委員会へ加入したことで、浅草橋のワークショップが開催されるなど官公庁の紹介は多く見られます。今、インバウンドを見込んでインフルエンシャル印刷で意

地域と共に生きる印刷会社

街の活性化に貢献 | 自社の発展と共に歩む

座談会 地域活性化で、街も自社も楽しく元気に

— 印刷会社が果たす役割 —

印刷会社は、地域とどのように向き合っていくべきだろうか。地域と共に生きる印刷会社の中に、ここからの発信が大きなヒントと可能性を秘めている。座談会を企画した。地域活性化に先駆的に取り組んでいる株式会社日相印刷(栗井功雄社長、神谷川陽雄取締役)、望月印刷株式会社(望月裕将社長、東京郡台東区)、一般社団法人むらさき館(山本久嗣代表理事、東京都千代田区)の3社・団体に、地域活性化における印刷会社の役割や展望を聞いた。

地域イベントに参加

望月印刷さんは、モノづくりの町、東京都台東区と墨田区の中で、創業112年(明治38年)を迎える老舗の総合印刷会社です。墨田区に撮影スタジオも保有し、3D・VR(仮想現実)といった紙メディア以外にも業界に取組まれています。地域活性化のため、地域イベントにも熱心に参加されています。まずはその中、台東区南側の地域イベント「モノマチ」に参加されたきっかけから伺えます。

「モノマチ」に関わろうとなったのは、今から5年前になります。台東区一帯はモノづくりの町として栄えてきました。区が運営する「台東アメイーズビレッジ」という若いデザイナーの創業を支援する施設があり、そこを出身とする若いデザイナーたちも何の有志たちがモノづくりの町を再来、実際にビルしようとして、2011年に「モノマチ」を立ち上げました。

「モノマチ」は、台東区南側の町を巻き込みモノづくりや町の魅力を盛り込もうというイベントです。町中でモノづくり体験や作品販売、展示など毎年5月下旬にイベントを行っています。3日間の期間中、約10万人が訪れます。毎年10月目を迎えます。

立ち上げ翌年の2012年に、知り合いに誘われ、参加したいのを伺ったので、この時は、会社としてではなく、私個人として参加していました。

「モノマチ」の企画は台東区南側を3つの地域エリアに分けて運営を行っています。そうしている理由は、私自身・駒形・浅草橋、浅草橋エリアを管轄するリーダーを任せられ、エリアごとの統括責任者を務めています。もちろん、運営部分に直接関わっています。

2012年に一社ではなかなか進んだ活動にしようとして、今では「台東モノづくりのまちづくり協会」として設立し、協会のメンバーになりました。役員は1名だけですが、全員がボランティアで、手弁当で運営を行っています。

私自身、ショップや飲食店など100店舗の会員を統括しています。毎月のやり取りなど、なかなか大変なところもあるのですが、楽しんでやっています。一歩ラフな活動というのですが、会社として取り組まれている活動なのでよかったです。

関 協会の活動は個人だけが、そのうち共同でつくれば社員数も個人別にボランティアで参加してくれて、会社の中で取り組まれています。2年目からは会社の中で取り組まれています。

一歩には参加されていない活動があります。

関 墨田区の工場が参加する「STEMA」というイベントにも協力しています。墨田区の町工場を開放して工場見学や、職人を雇って技術に触れ、モノが作られていく現場を肌で感じることのできるイベントです。11月下旬の2日開催されています。

本社がある浅草橋の町内が持っている「浅草橋紙伝(やまごまごり)」に参加しています。お祭りを通して行うため、物品販売も行っています。今年からマーチング委員会へ加入したのと同じ、浅草橋のワークショップ委員会へ加入したことで、浅草橋のワークショップが開催されるなど官公庁の紹介は多く見られます。今、インバウンドを見込んでインフルエンシャル印刷で意

出典:印刷情報 2017年10月号転載